



ご利用者インタビュー

東京オリンピック2020が閉幕し、日本は史上最多となる金メダル27個を含む合計58個のメダルを獲得しました。そこで、利用者の方に前回の1964年東京オリンピックの思い出についてインタビューを行いました。

・ロピテル一日市場 入居者A様

—1964年東京オリンピックの時は何をされていましたか？

A:当時は20代半ばで、東京で勤めていました。

—オリンピックの思い出はありますか？

A:当時はオリンピックに向けて街も大きく変わっていき、活気がありました。私自身は、東京オリンピックのマラソンを見に行きました。

—実際に観戦されたんですね。

A:はい。陸上競技、特にマラソンが好きで見に行きました。チケット代は覚えていませんが、そんなに高額ではなかったと思います。ゴール近くのよい席で、アベベや日本人ランナーがゴールインした時の興奮と感激は、60年近く経った今でもよく覚えています。

—当時と今年のオリンピックで違いは感じますか？

A:国立競技場は満員のお客さんで、大きな歓声をあげて応援しました。今年は無観客となりかわいそうな気がします。今年も、テレビで色々な競技を観戦しましたが、東京の街並みも当時と比べ物にならないくらい立派になっていて驚きました。

コラム「介護者の人の気持ち。」

キャラバンメイト 二村 高明
(安曇野南介護相談センター)

今年の夏、皆さんはどう過ごされましたか。エアコン使ってくださいね。さて、今回は認知症の人の気持ちを少しご紹介させていただきました。今回は、介護する人の気持ちについて考えてみたいと思います。

ご家族の誰かが認知症と診断され「ああ、やはり。」と思い当たる。あるいは「何とかならないのか。」と考え色々調べたり、本を読んだりします。それらは大切なことを教えてくれますし、役に立つこともたくさんあります。そのうちに「病気を受け入れて云々」とか「その人らしさを大切に云々」と言われたり、書いてあるのを目にします。そして多くの介護者が訴えます。「そんなことは頭ではわかっている。でも気持ちがついていかない。」

不安は全く解消されません。まったくその通りです。気持ちの整理や変更はとても難しい。

認知症の方（特に記憶障害があると）が”今”を生きているのに対し、介護者は今までの関係（過去）に引きずられてしまいます。そこに受け入れられないつらさを感じてしまうのではないのでしょうか。元気なころと比べ目の前の人が別人のように感じられてしまいます。変わってしまったことを納得するのは簡単なことではないと思います。

ご自身の気持ちを少しでも整理することができれば介護を変えることもできるかもしれません。

避難場所提供協定を締結しました

社会福祉法人七つの鐘と一日市場区防災会との
災害時における協定締結式



ロピテル一日市場と一日市場区で災害時に一時的に避難場所を提供する協定を締結し、8/3に協定締結式を行いました。

夏のレシピ

「トマトの和え物」

材料	分量
トマト	50 g
オクラ	25 g
しょうゆ	2 g
穀物酢	3 g
砂糖	2 g



なんと材料を切って和えるだけ！

このニュースレターでは、皆さんからいただいた作品についても掲載したいと考えています。・俳句・写真・コラム etc.

どんなものでも結構ですので、お気軽に下記メールアドレスまでご応募お待ちしております。
メールアドレス hitoichiba@lhopitel.com

次回電話相談窓口

9/18 (土) 13:30~

電話 0263-77-8800